

「第13回自動車安全シンポジウム」の開催報告

Summary Report on the 13th Automobile Safety Symposium

上野 昌範^{*1}
Masanori UENO

1. はじめに

2013年1月18日、東京都渋谷区の国連大学 ウ・タント国際会議場において「第13回自動車安全シンポジウム(国土交通省主催)」が開催された。今年度は「悲惨な交通事故をいかに防ぐのか ～車両安全技術の普及に向けて～」をテーマとし、講演とパネルディスカッションの2部構成で行われた。第1部では、「車両安全対策の現状と今後について」、「車両安全対策検討会等の活動状況」、「自動車の安全技術の開発状況」の講演が行われた。第2部では、有識者を招いて「悲惨な交通事故をいかに防ぐのか」についてのパネルディスカッションが行われた。

このシンポジウムは国土交通省の委託事業「自動車安全対策のマネジメントサイクルの推進に係る調査」の中の一つとして開催されたものである。



会場風景

2. シンポジウムの概要

2.1 第1部 講演

最初に、国土交通省 自動車局 次長の清谷伸吾氏から、主催者挨拶が行われ、続いて下記の講演が行われた。



国土交通省 自動車局 次長 清谷伸吾氏

① 「車両安全対策の現状と今後について」

国土交通省 自動車局 技術政策課
国際業務室 室長 斧田孝夫氏



国土交通省 自動車局 技術政策課
国際業務室 室長 斧田孝夫氏

*1 一般財団法人日本自動車研究所 安全研究部

(講演要旨)

交通事故による死者数は減少傾向にあり、2012年中の死者数が4,411人、負傷者数が824,539人であった。一方で、集団登校中の児童等が多数死傷する重大な事故を初めとする、社会的に反響の大きい事故が相次いで発生するなど、依然として深刻な状況にある。

政府は、世界一安全なクルマ社会の実現を目指すため、2018年を目途に交通事故死者数を2,500人以下、人口10万人あたりの死者数を2.4人とする目標を掲げている。これを踏まえ、交通政策審議会において、車両安全対策として2020年までに交通事故死者数を1,000人削減する目標が設定された。

この目標を達成するために、国土交通省自動車局では、安全基準の拡充・強化、自動車アセスメント、ASV推進計画の連携により車両安全対策を進めている。

②「車両安全対策検討会等の活動状況」

東京大学 高齢社会総合研究機構
機構長・教授 鎌田実氏



東京大学 高齢社会総合研究機構
機構長・教授 鎌田実氏

(講演要旨)

交通政策審議会において、車両安全対策の目標として2020年までに交通事故死者数を1,000人削減する目標が設定された。この目標を達成するため、安全基準検討会から改組された車両安全対策検討会では、ASV推進検討会、自動車アセスメント評価検討会と連携して車両安全対策を進めている。

交通政策審議会の報告書で示された車両安全対策に向けた課題は、1)少子高齢化への対応、2)歩行者・自転車乗員の事故防止・被害軽減対策、3)新たなモビリティへの対応、4)大型車がからむ重大事故対策が提示されている。2012年度は、これまでに2回の検討会を開催し、バスの車両安全性向上および幼児専用車の安全対策について検討している。また、車両安全対策の基本となる事故調査・分析についても車両安全対策事故調査・分析検討会を設置し、既存の各種事故調査のレビューならびに事故調査データの有効活用に向けた検討を行っている。

③「自動車の安全技術の開発状況」

一般社団法人日本自動車工業会
安全・環境技術委員会 安全部会
部会長 高橋信彦氏



一般社団法人日本自動車工業会 安全・環境技術委員会
安全部会 部会長 高橋信彦氏

(講演要旨)

最近注目された事故には、1)大型車の関係する事故、2)ペダル踏み間違いによる事故、3)ルールに従わずに発生した事故などがあり、人・クルマ・社会の三位一体での対応が必要である。車両側だけで対策可能な事故形態は限られているが、センサ類の進化により、条件が整えば検出・制御できつつある。

大型車の関係する事故では、追突事故が多数を占めることから、予防安全技術を用いた追突防止対策を進めている。これまでに実用化されてきたシステムとしては、被害軽減ブレーキ(AEBS)、車

線逸脱警報(LDWS)・ふらつき警報, 横滑り防止装置(EVSC)などがある. これらの装備をいかに普及させていくかが今後の課題となる.

ペダル踏み間違いによる事故には, ソナー, レーダー, カメラなどの各種センサを統合的に用いて周囲の状況に応じた出力制御によるシステムが開発されている.

ルールに従わずに発生した事故に対する対策例として, 飲酒運転防止技術を紹介する. 飲酒運転防止には, アルコールインターロックによる方法が一般的である. 煩わしくなく, 高精度のアルコール検知技術の開発が当面の課題である.

2.2 第2部 パネルディスカッション

第2部は「悲惨な交通事故をいかに防ぐのか」をテーマとし, 下記の方々によるパネルディスカッションが行われた.

司会:

室山 哲也氏 日本放送協会 解説委員室
解説主幹

パネリスト:

清水 和夫氏 国際自動車ジャーナリスト
鎌田 実氏 東京大学
高齢社会総合研究機構
機構長・教授

古川 修氏 芝浦工業大学
システム理工学部

機械制御システム学科 教授

高橋 信彦氏 一般社団法人日本自動車工業会
安全・環境技術委員会 安全部会
部会長

杉浦 秀明氏 一般社団法人日本自動車工業会
安全・環境技術委員会
大型車部会 部会長

斧田 孝夫氏 国土交通省 自動車局
技術政策課 国際業務室 室長



パネルディスカッションの様子

初めに司会者の室山氏から, 人も社会も高齢化が進んでいる中で, 安全な交通社会を構築するために, 技術開発の状況, 課題・問題点の整理, 解決策などを道路交通行政や国全体の環境も考えながら議論していきたいとの話があり, ディスカッションが開始された.

人と社会システムの高齢化, 大型車の事故, 予防安全技術をキーワードに, 技術の進歩だけでなく, 利用するユーザー側も同時に進歩していくことが重要であるとして活発なディスカッションが行われた.

最後に, 技術と人が同時に進歩していくには, 国, 自治体, 市民が一体となり社会全体のグランドデザインを構築し, 技術の連鎖が起きていくようなシステムを整備していくことが大切であるとのまとめで終了した.

2.3 車両展示

今回のシンポジウムでは, 初めての試みとして, 一般社団法人日本自動車工業会の協力を得て, シンポジウムのテーマに連動した車両の展示を行った. 参加者からは, 実際のシステムを各社横並びで比較できるのは興味深いなど, 好評であった.



車両展示の様子

3. おわりに

今後も国土交通省の取組みを広く紹介し、一般の方々のご意見を伺う場として、「自動車安全シンポジウム」が継続していくことを希望する。